

産山学園研究発表会

校訓

We have a dream 私たちには、夢がある

学校教育目標

心豊かに、たくましく、互いに高め合う学園生の育成

研究テーマ

主体的に学習に取り組み、考えを深める子どもの育成

Thinking

9年間を
見通した

Challenge

つながり つながる
カリキュラム

Teamwork

内容①

実態をもとにした授業改善

- ① 自力で情報を取り出す力をつける授業づくり
- ② 子ども自身が学びを確認する「まとめ」ができる授業づくり

内容②

学びとくらし、地域をつなぐ

教育活動の充実

- ① ヒゴタイ・イングリッシュ
- ② うぶやま学
- ③ チャレンジ学習

人権教育の視点・ICT 教育の推進

信頼される学校づくり

コミュニティ・スクール

地域と連携した居場所づくり

学園生の実態・願い

地域学校協働本部

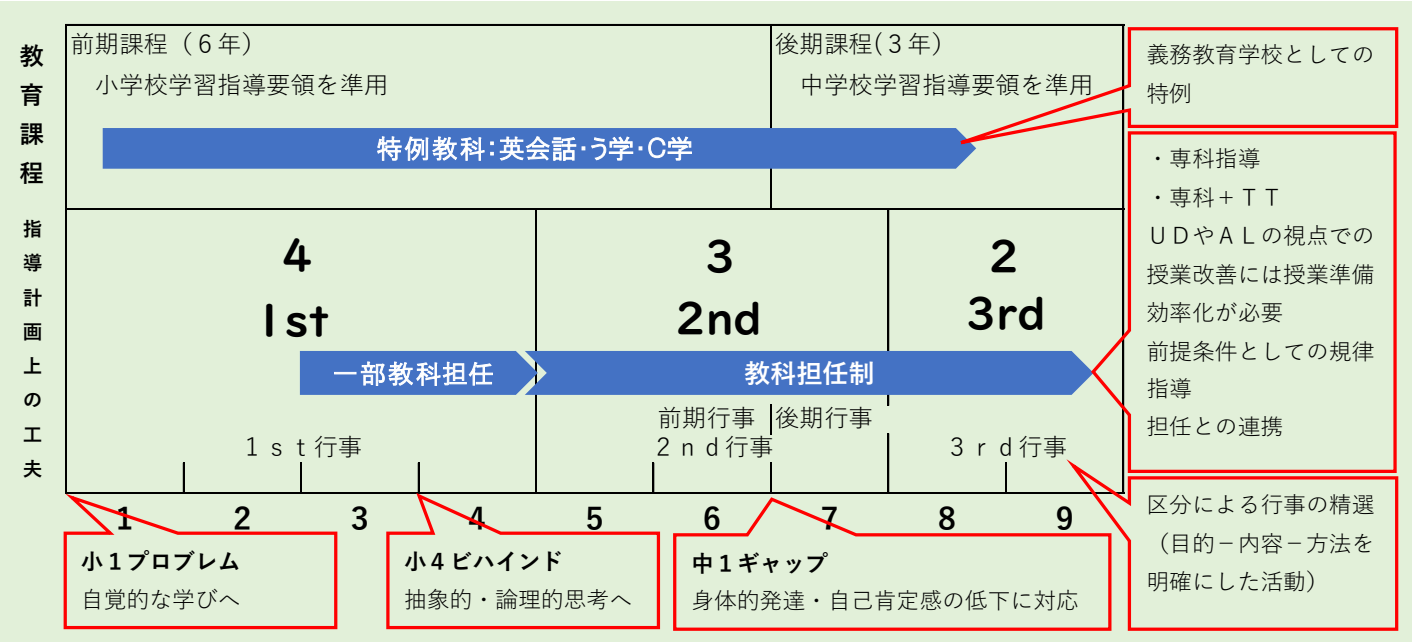
(学校応援隊)

保護者・産山村の願い



産山の教育について

特色ある教育課程



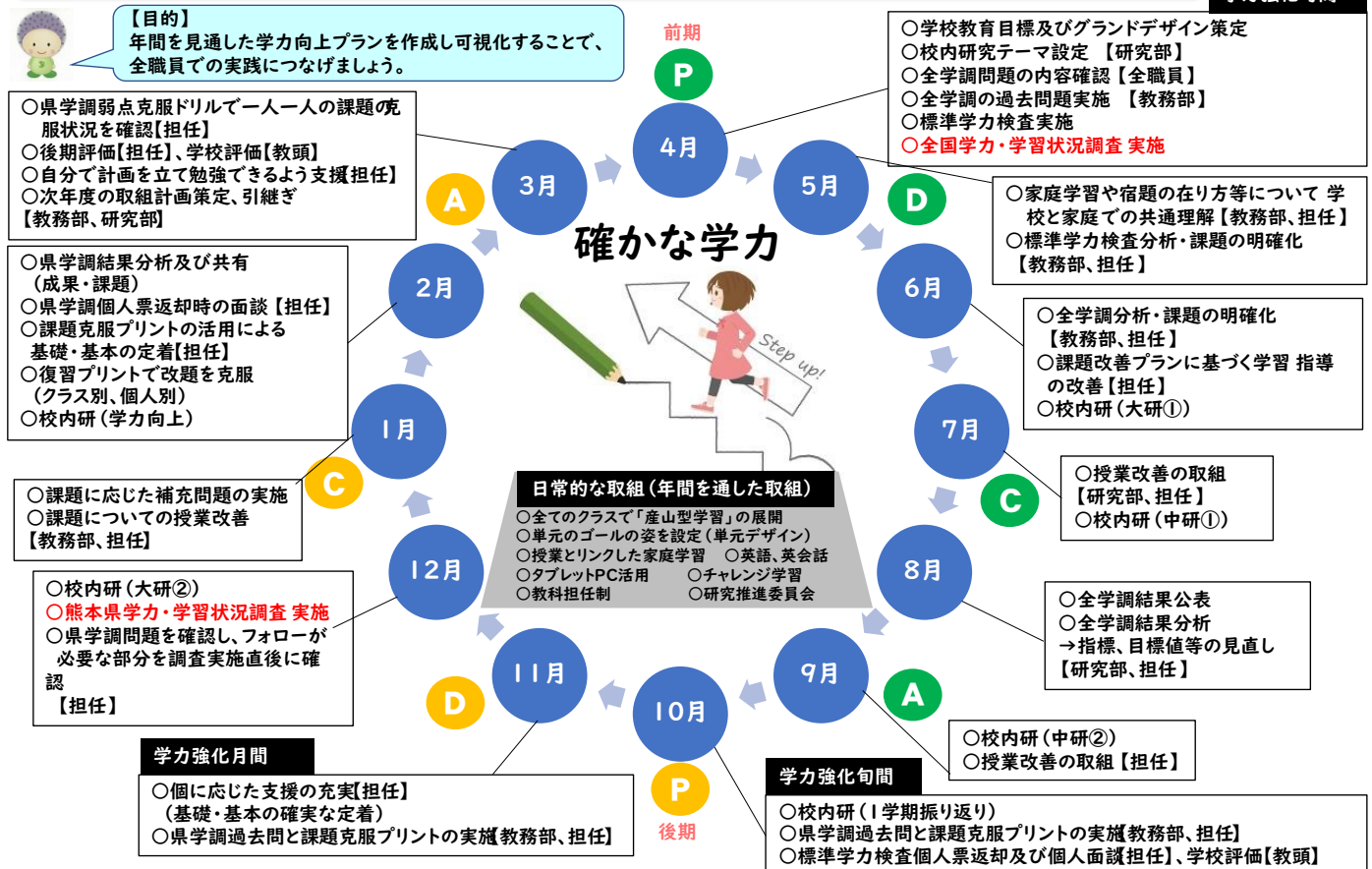
	1ステージ				2ステージ			3ステージ	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
英会話科	20	20	20	20	35	35	35	35	35
外国語活動			35	35	70	70	140	140	140
英語科									
うぶやま学	34	35	45	45	45	45	45	45	45
チャレンジ学習			25	25	25	25	25	25	25

産山学園学力向上検証改善（PDCA）サイクル

令和6年度産山学園学力向上検証改善（PDCA）サイクル

～学力向上に係る日頃の授業を改善～

学力強化旬間



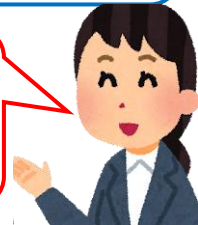
学園生の実態

◆授業における学園生・教職員の状況から



- 友達や周りの人と話し合い、協力しながら学習をすることができています。
- 産山の良さを生かした学習が多く、様々な体験ができます。
- 学習や活動に一生懸命取り組みますが、一人で考えたり自分の考えを表現したりすることは苦手です。

- 学園生が「分かる」授業づくりを目指す一方で、先回りの支援や教師主導による学習活動の場が多かったように思います。
- 学園生が自分に自信をもつために、体験活動を通して、学園生が達成感を実感できるようにしたい。



◆学力調査等の結果から明らかになった課題

令和5年12月に行った県学力調査によると、国語科では、前期課程において「知識・技能」、「思考・判断・表現」の問題に課題が見られた。算数・数学科では、「思考・判断・表現」の問題において全国の値を下回っている学年があった。

「主体的に学習に取り組む態度」は、学力調査の結果では全国の値より高い結果であったが、令和6年4月の学園生の意識調査では「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」の質問に対して「あまり取り組めていない」と答えた割合が全国の値と比べて高く、主体的に学びに向かう態度の育成に注力を注ぐ必要があると考えた。

◆問題分析から明らかになった学習指導の在り方

- 課題把握の場面で「自力で情報を取り出すこと」に課題がある。課題把握の場面での、教員の支援のあり方や必要な手立てを行う必要がある。
- 「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫すること」に課題がある。授業の終末に、学園生が主体的に学んだことをまとめるために必要な手立てを行う。
- 感動体験や成功体験の項目に課題がある。地域と連携して、産山の特色ある体験活動の充実を図り、学園生の自己肯定感を高めていきたい。

日付	題名
4/10 ~ 4/11	大連いさんとガン
感想	「いつまでも、いつまでも、思まわってました。」という最後の一文が心に響いた。残雪への気持ちが変わるところに感動した。
日付	題名
4/21 ~ 4/25	星の王子さま
感想	キツネが「心で思わなくちゃ」と話したところが、形のないものの大切さを考えるきっかけになった。
日付	題名
4/27 ~ 4/29	はろーばのおはなし 「オニグモいさんの朝ごはん」
感想	「わしが食べて生きているのは、明日のひかりだよ」という言葉に、心があたたかくなった。シリーズの他の作品も読みたい。
日付	題名
4月のふり返り	本から引用

四 原さんの学級では、日ごろから読んだ本を記録しています。次は、【原さんの読書の記録】です。原さんは自分の記録を読み直し、気づいたことを（ ）にまとめます。（ ）に入る内容として最も適切なものを選んで番号を書きましょう。

(全国学力学習状況調査問題 6年 問題 四)

目的に合った情報の整理の仕方を学んだり、選んだりする力を付ける必要があります。

複数の情報を整理することで、考えを明確にしたり、思考をまとめたりすることができると実感できるように指導する必要があります。

研究のグループ

情報を取り出す力を高めるグループ

一人一人の教員の課題を
協働的に解決するグループ

書く力を高めるグループ

伝え合う力を高めるグループ

単元デザイングループ（内容2）

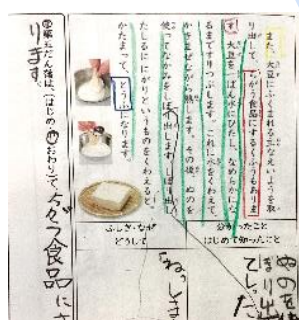
内容① 研究の実際

第3学年 国語 説明文「すがたをかえる大豆」 情報を取り出す力を高めるグループ

重点 1

自力で情報を取り出す力を育む手立て

「食品名」を青、「おいしく食べる工夫」を赤、「作り方」を緑で色分けして線を引くことで、何がどこに書かれているかを意識して読めるようにした。



- ① 筆者はなぜこのような「れい」のならば方にしたのか考えよう。(段落の構成の意図を考える)

- ② 段落ごとに内容を確認し、比較する。

時間が書いてあったよ。だんだん時間がかかっているね。



- ③ 自分なりに根拠をもって段落の構成の理由を伝え合う。



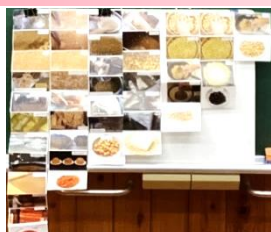
作り方が分かりやすい順に並んでいると思う。

作り方がだんだん難しくなっている。

重点 2

「まとめ」で自分の学びを確認する手立て

大切にしたい表現を視覚的に示すことで、児童が、段落の順番について理解を深め、自分なりの言葉でまとめることができるようにした。



- ④ 段落の順番を決めるときに大切なことは何かを自分の言葉でまとめる。

読む人が分かりやすいように書いています。

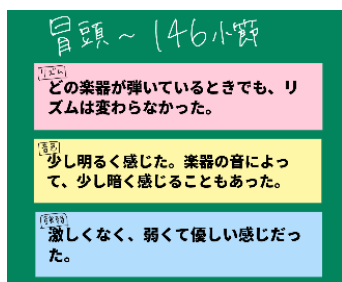


第9学年 音楽科 鑑賞「ボレロ」 伝え合う力を高めるグループ

重点 1

自力で情報を取り出す力を育む手立て

要素を、リズム、音色、強弱に限定することで、情報を取り出しやすくした。



- ① 曲のつくりに着目して、ラヴェル作曲「ボレロ」の特徴を捉えよう。

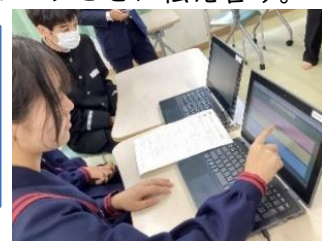
100年もの間、長く演奏されている理由は何だろう。

- ② 前半部分の曲の特徴を自分の言葉でまとめる。

リズムはずっと同じだな。机をたたいて確認

- ③ 後半部分の曲の特徴をグループごとに伝え合う。

強弱は、どんどん大きくなっているね。
この音色は少し暗く感じたけれど、どう思う？



重点 2

「まとめ」で自分の学びを確認する手立て

様々な表現に出会わせることで、問いに対してより適切な情報を掴み、自分の言葉でまとめることができるようにした。



- ④ 曲のつくりの特徴を自分の言葉でまとめる。

ボレロの曲の作りについては、リズムは最後まで変わらないが、楽器の種類や音色が増え、曲調がだんだん強くなっていることがわかった。

重点
1

自力で情報を取り出す力を育む手立て

前時に物語の設定を書いた「お話メモ」をもとに、物語を書き始めるようにした。自分で書いたメモに、線を引いたり囲んだりしながら、確認した。



① 1年生がわかりやすいお話にするには、どんなことに気をつけるといいか、考えよう。

(前時のメモをもとに今後の留意点を考える)

② これまでの学習で書いた「お話メモ」をもとに、1人でお話を書いていく。

「がんばりや・あわてんぼう」などどんぐりくんは、どんなお話をするかな。会話文をたくさん書いてみようかな。

③ みんなと話し合って気をつけることを確認する。

- 順番がわかる言葉を使うといいと思います。
- 主語「～は」と、述語「どうする・どんなだ」をはっきりさせる。



④ お話を書くときに大切なことは何かを自分の言葉でまとめる。

○ 各自が気をつけなければならないことを考えて書く



重点
2

「まとめ」で自分の学びを確認する手立て

大切なことを話し合って明らかにし、板書しておくことで、授業の終末に自分の言葉でまとめを書くことができるようにした。

内容② 学びとくらし、地域をつなぐ教育活動の充実

第6学年 うぶやま学習 「戦争から学ぶ、『うぶやま』の平和」 単元デザイングループ

過程	時間	学習活動等
一次	7	○ 修学旅行で訪れる長崎が、どのような場所かを正しく知る。 ・ 千羽鶴に込められた思いを知り、鶴を折る。 ・ 長崎に行って自分の目や、耳、心で確かめたことをまとめる。 ○ 自分の身近なところにある戦争と平和について調べる。 ・ 自分の家族が受け継いできた戦争の話を聞き、絵本にまとめる。
二次	5	○ 被爆体験の講話を聞いたり、フィールドワークをしたりする中で、平和の大切さについて学ぶ。 ○ 修学旅行で学んだことをもとに、自分の考えをまとめる。
三次	4	○ 平和学習を通して自分の生き方について考える。 ・ 地域の方の話を聞く。 ・ 戦争によって失われたものを考え、自分たちのくらしについて考える。 ・ 平和学習を通して学んだこと、感じたことをまとめて発表する。

家族から聞き取った話を、オリジナル絵本に!



自分の国も、相手の国もたくさんの犠牲者が出る。大切な人を失うものだと分かった。今を生きる人に、語り継いでいきたい。

家族が受け継いできた戦争の話を、4冊の絵本にまとめた。自分のくらしを見つめる機会となった。

「うぶやま」に住む方の戦争体験を生々の声で!

ひいじいちゃんとひいばあちゃんが、ていねいに伝えてくれたから、戦争のことについて正しく知ることができた。発表にも自信がもてた。



「子どもたちのためなら!」と快く引き受けてくださった。地域の方との交流を通して、互いに温かい気持ちを共有し、地域とのつながりから学びを深めた。

令和6年度ヒゴタイ交流は、37年目を迎える。実践的な学習を通して英語教育の充実を目指している。

第36回派遣

8月4日～24日（3週間）

生徒4名、引率教諭1名

第37回受入

10月6日～26日（3週間）

生徒4名、引率教諭1名



タイの学校で授業を受けました。



Let's go to the music room!

第4～7学年 ヘルパー活動

社会福祉の各取組を行うことで、産山の一員としての自覚を深め、村民のウェルビーイングの向上に寄与する。

【各学年の取組】

4年：「ゴールドクラブ（介護予防・生きがいづくり）会員との交流」

5年：「通所介護事業所ほっと館利用者への福祉プログラム提供」

6, 7年：「要支援者宅での見守り活動」

※ 学園生の市民性を培うことに賛同する要支援者宅を訪問。

※村社会福祉協議会及び民生委員と連携



「見守り活動」でカードゲームを楽しむ支援者と6年生



「見守り活動」で会話を楽しむ支援者と7年生

第9学年 子ども議会

村当局と直接意見交換をすることにより、村民の一員としての自覚を高める。

うぶやま学の最終的なゴールで、9年生が自分のふるさを見つめ、産山を将来どのようにしたいのか、理想に向かって夢や希望を語る。

【これまでの取組】

天文台の建設、「山鹿川」の名称変更等



産山の自然を生かして、家族で楽しめる施設があれば、観光客が増えるのでは・・・



産山のキャンプ場に木造アスレチックを建設すれば、産山ファンが増えると思いま

体験活動の充実

鯉農法による米作り



地域の方に御協力いただき、田植えの後に鯉を入れて、無農薬による米の栽培を行った。

夢の給食講話



講師の方にあか牛についてお話していただき、あか牛ステーキ給食を実施した。

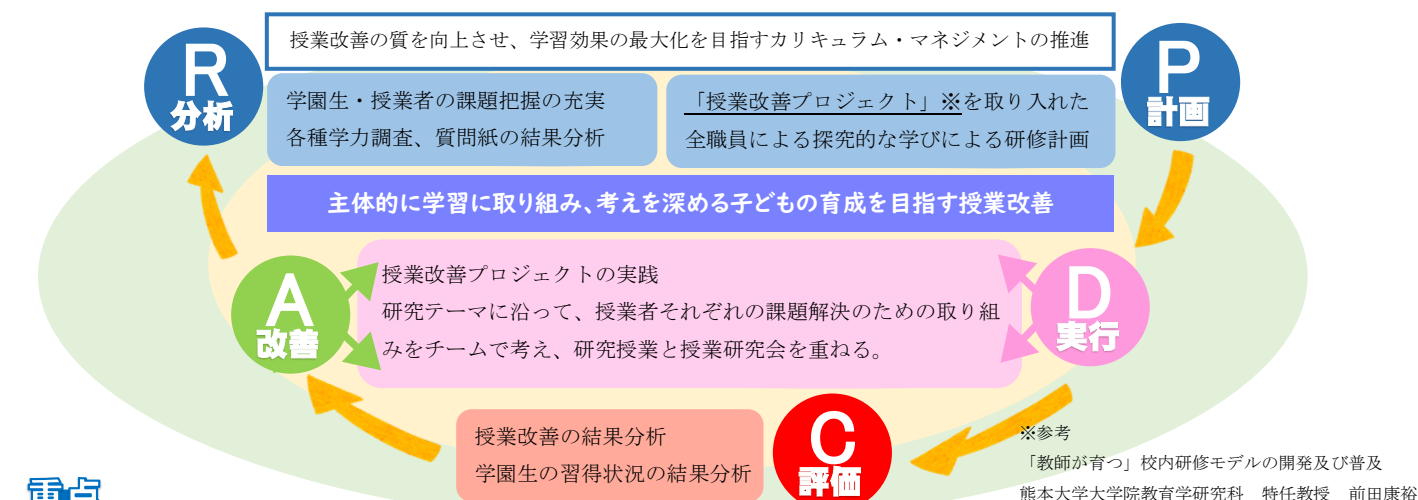
御所浦との海山交流



昭和63年から交互に訪問。互いの故郷の良さについて体験を通して理解を深めることができた。

内容①「実態をもとにした授業改善」のための研究の方法と2つの視点

実態分析をもとにした授業改善を行うことにより、学びに向かう力や自己肯定感が高まり、学園生が確かな学力を身につけることを目指します。



重点1

自力で情報を取り出す力を育む授業

児童・生徒の問いを引き出すとともに、課題設定の方法や解決への見通しのもち方も身につけさせたい。

重点2

「まとめ」で自分の学びを確認する授業

自分の言葉でまとめるためには、学年や実態、各教科に合った、言語活動も充実させたい。



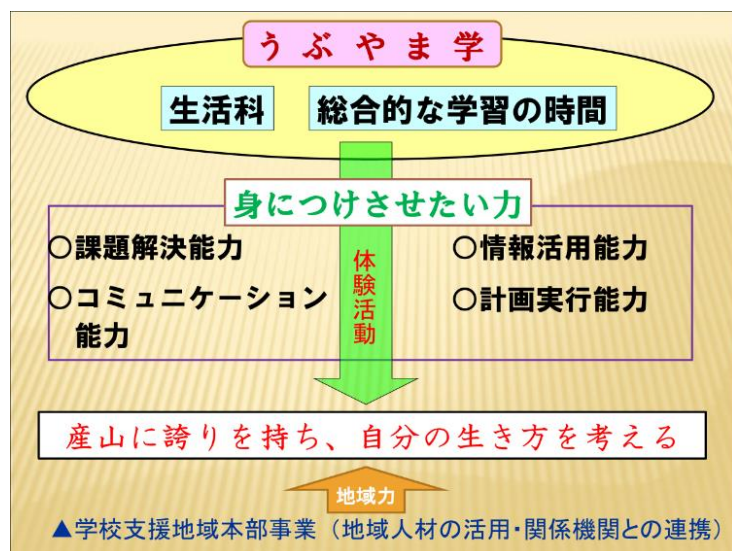
めざす学園生 「学んだこと」を自分の言葉で明らかにする学園生

内容② 学びとくらし、地域をつなぐ教育活動の充実

自己の成長が実感できる体験活動や表現活動を行うことにより、学園生が学習における達成感を味わうとともに、自尊感情を高め、自他を尊重しようとする豊かな心を育むことを目指します。

ヒゴタイ・イングリッシュ(ヒゴタイ交流を核とした英語教育)

ヒゴタイ交流を核とした英語教育の充実のために、1年生から9年生まで、英会話科における英語教育の実施。



チャレンジ学 通称「チャレ学」

国語(漢字)

英検

算数・数学

△児童・生徒が自分で目標を設定
△複数の教員できめ細やかな指導

○基礎基本の定着

○学習意欲の喚起

○発展的学習

○個々の力を伸ばす

各種検定へチャレンジ

☆☆☆☆成果☆☆☆☆

教職員アンケートから (R7.2月実施)

- 一人一人が主体的に授業改善に取り組めるよう、テーマごとにグループを作り、校内研修に取り組んだ。お互いの授業作りにアドバイスし合ったり授業を見合ったりすることが、授業改善につながったと考えられる。

学園生の実態から (県学力調査 R5 と R6 を比べて)

- 学び方を身につける手立てを充実させたことで、学園生が一人でも学習する自信が高まり、「主体的に学びに向かう態度」が向上したと考えられる。
- 自力で取り出した情報をもとに学習し、実感を伴ったまとめの学習活動を充実させたことで、「思考・判断・表現」においても向上したと考えられる。

「i-check」の結果から

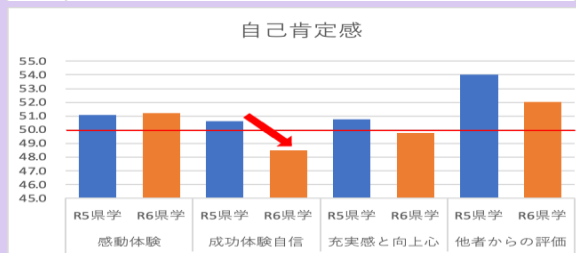
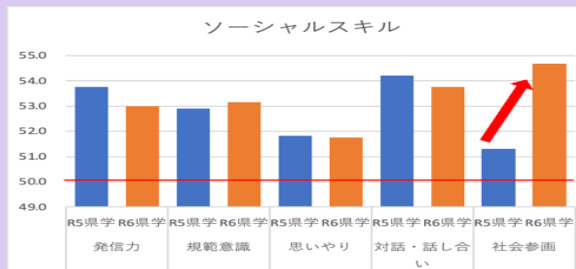
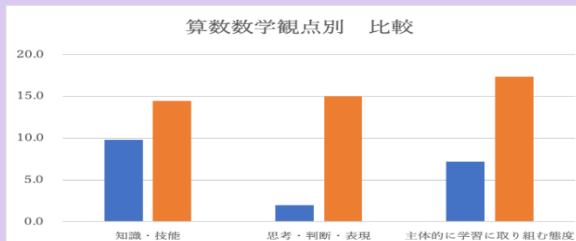
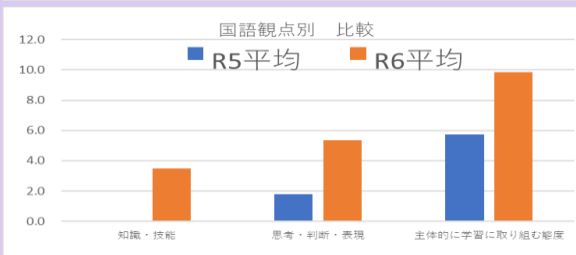
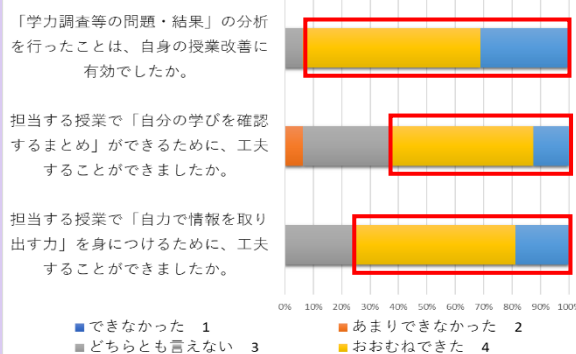
(東京書籍総合質問紙調査 R5 と R6 の比較)

- 地域とつなぐ教育活動を充実させたことで、学園生が体験的に学んだり学習したことを活用したりする機会が増え、「社会参画」「感動体験」の項目において向上したと考えられる。

◆◆◆課題◆◆◆

- 「まとめで自分の学びを確認する」ための授業改善をさらに充実させる。
- 「成功体験・自信」における自己肯定感の向上。

研究に対する授業者の意識アンケート結果



全国
の正
答率
を0
と見
た時
の本
校の
値

全国
の平均
を50
と見
た時
の本
校の
値

●○今後の展望○●

- 教職員は、学園生が、本来もっている主体性を発揮できる授業改善を、今後も継続していく。
- 体験活動等における主体的な学びや振り返りの充実を目指す。